

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

関市公共交通活性化協議会 (関市)

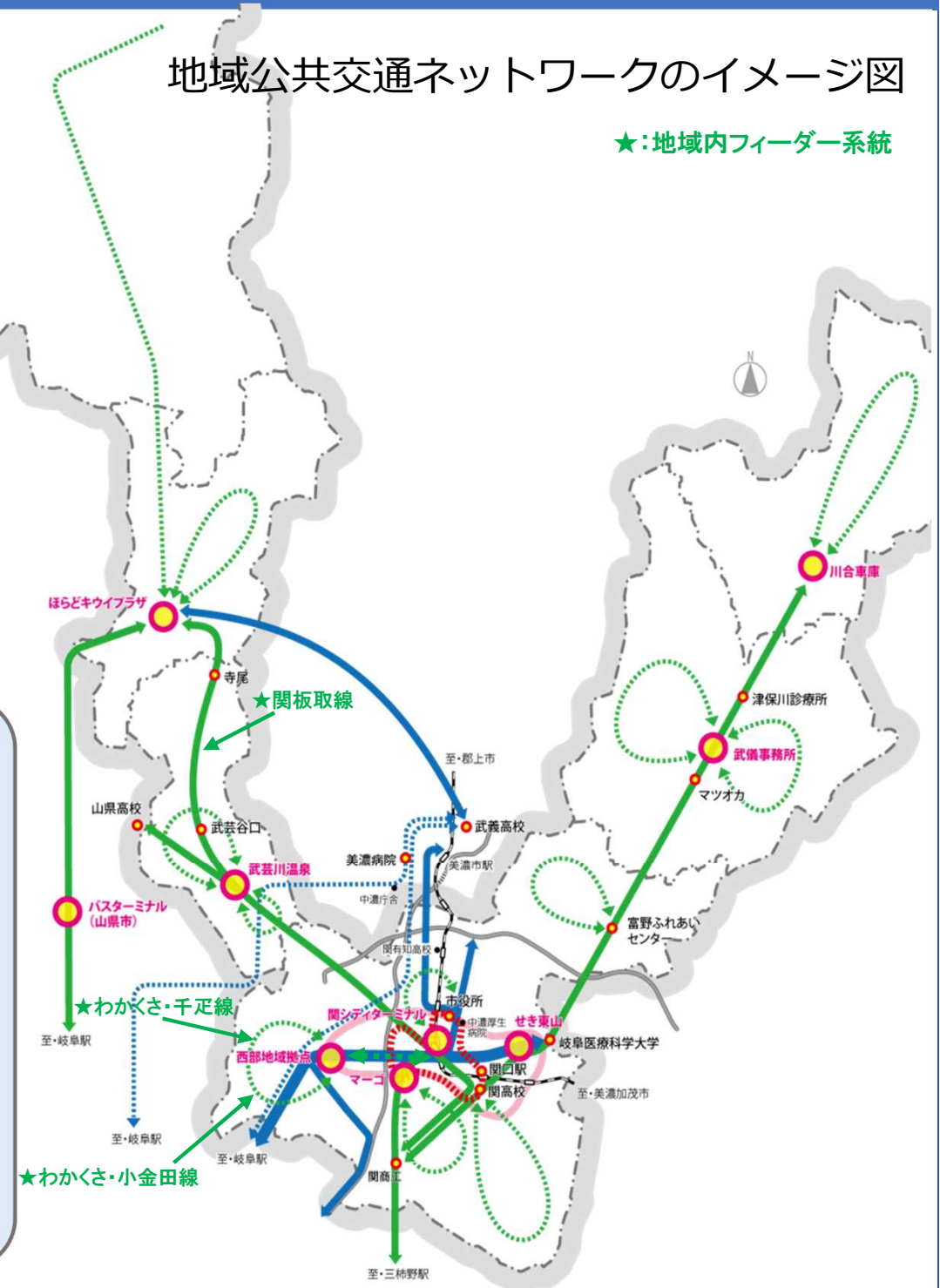
平成 2 1 年 3 月 2 1 日設置

令和 4 年 3 月 2 3 日 関市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和 4 年 4 月～令和 9 年 3 月)



評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・ 地域公共交通調査事業



★:地域内フィーダー系統





★：フィーダー補助路線該当施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群 1 2バス路線の再編	市中心部を運行する 買い物循環線を 1 時 間に 1 本に増便 し、 パターンダイヤ を採 用（R2.10再編）	<u>年間利用者数</u> 令和 3 年度 43,509人 令和 4 年度 52,270人 令和 5 年度 56,827人 令和 6 年度 61,042人 令和 7 年度 65,479人	買い物循環線は 毎年利用者が 増加。1 時間ごとのパターン ダイヤが定着し、わかりやす さから継続的な利用者の増加 につながっている ものと考察 します。
施策群 1 2バス路線の再編	デマンド乗合タク シーの運行地区から 商業施設マーゴまで の直行便について、 実証実験を実施 （R7.7～R7.9）	3 ヶ月間での利用実績 ・運行回数 下有知地区 9回 瀬尻・広見地区 26回 ・利用者数（延べ） 下有知地区 7人 瀬尻・広見地区 5人	自治会からの要望を受けて実 証運行を行ったが、利用者が 少なく実現化には至りません でした。周知方法、潜在需要 の把握に課題を残しました。
★施策群 1 4 バス停・駅環境の 改善	<ul style="list-style-type: none"> ・バスカット設置工 事を実施 ・関下有知駅の駐輪 場の舗装工事を実施 ・関シティターミナ ル男子トイレの小便 器を改修 	 	長年、自治会から要望されて いた「巾」バス停の新設 に向 けてバスカットを施工しまし た。今後、バス利用者が増え るよう周知を行います。 工事や修繕を通して、利用者 が使いやすい環境の実現に取り 組みました。

★：フィーダー補助路線該当施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群 2 3 学生通学支援補助 制度の実施	高速名古屋線の通学 定期乗車券購入に対 して1カ月あたり 10,000円補助 令和6年10月から オンライン申請 での 対応を開始	令和5年度 申請者78人 補助金額 2,340,000円 令和6年度 申請者91人 補助金額 6,925,000円 令和7年度 申請者93人 補助金額 4,980,000円 ※R7は11月末現在	市内の高校や塾にも案内チラ シを配布 し制度を周知。 オン ライン申請が増加（申請件数 全体の約80%） し、申請件数 も増加しています。今後も継 続して周知活動を実施します。
施策群 2 4 高齢者運転免許証 自主返納者への支援 	75歳以上の市民を 対象に関シティバス で使用できる「関市 高齢者バス回数券」 を令和7年10月に 配布。	発送者 13,698人 回数券 3,000円分 (100円×30枚綴り) 利用実績 10月：4,170枚 11月：4,381枚	高齢者の関シティバスの利用 の促進と、健康の増進のため に配布しました。一部の市民 でバスに乗るきっかけとなり ましたが、回数券による利用 者の増加傾向は見られず、今 後制度の再検証が必要です。
★施策群 3 4 バス・タクシー利 用促進イベントの実 施 	園児による車内装飾 EVバス（ハロウィ ン装飾バス）の運行	参加者 富岡保育園児31名 装飾車両 1台 運行期間 10月1日～11月3日 運行路線 買い物循環線 わかくさ・小金田線 わかくさ・千疋線	公共交通に親しみをもって もらえるよう園児が自ら装飾を 行いました。後日、 家族で装 飾バスに乗車したといった声 も聞かれ 、公共交通を利用し てもらうきっかけづくりを行 うことができました。

★：フィーダー補助路線該当施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>施策群 3 5 長良川鉄道利用促進イベントの実施</p> 	<p>市内小学校の社会見学として、体験乗車と施設見学を実施</p>	<p>令和 6 年度 実施学校数 4校 受入児童数 154人 令和 7 年度 実施学校数 4校 受入児童数 176人</p>	<p>市教育委員会を通して受入募集を行い、長良川鉄道の協力を得て実施しました。地域鉄道として親しみを持ってもらい、将来通学やおでかけで利用してもらうきっかけ作りを行うことができました。</p>
<p>★施策群 4 4 バスの乗り方教室の実施</p> 	<p>デマンド乗合タクシー（マーゴ便）の実証実験の周知を兼ねて各運行地区で乗り方教室を開催</p>	<p>デマンド乗合タクシー乗り方教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下有知地区 開催回数 2回 参加者数 55人 ・瀬尻・広見地区 開催回数 3回 参加者数 83人 	<p>6月から7月にかけて、デマンド乗合タクシー運行地区の老人クラブの会合に参加し、乗り方教室を開催しました。参加者にはマイカー利用者も多く、公共交通への利用転換の難しさを感じました。</p>

地域公共交通調査事業 ～実施した調査およびその結果明らかになったこと～

事業内容	結果概要
地域特性の把握・整理	本市の地理的条件や道路網の状況、人口分布、施設立地などの地域特性を把握するため、既存資料を基に状況整理を行っています。市域の東部では区画整理が進み、今後人口分布が変わる可能性があります。
利用実態及びニーズに係る調査	乗降調査、利用者アンケート調査、高校生アンケート調査、全国交通系ＩＣカード等のデータ集計など、利用実態や潜在的なニーズを探るための調査を実施しています。利用者の多くは高齢者ですが、休日の買い物循環線は、２０歳代以下の若者が多く利用していることがわかりました。
公共交通の現状分析	既存資料及び各種調査の結果を基に、公共交通の運行状況、利用者数、運賃、収支・補助状況等、公共交通の概況の整理と分析を行っています。コロナ禍が終わり、利用者は全体的に増加傾向でコロナ禍を上回る便もありますが、デマンドバスで利用が減少している便も見られました。
市民意見交換会の開催	地域の意見を把握して地域公共交通計画に反映させるため、各地域において市民意見交換会を５回を実施し、各地域での意見を聴取しました。市民からは、利用方法の周知不足や、より自由度の高い公共交通の要望など、様々な意見が聞かれました。

地域公共交通調査事業 ～調査結果の地域公共交通計画への反映～

●調査の結果は、現在取りまとめ中のため、結果を明確にお示しできませんが、以下のような現状がみられるため、それを改善するための方針を検討して計画に反映させ、市民が利用しやすく持続可能な公共交通の実現を目指します。

- 現行の関市の公共交通サービスは、コロナ禍を経て、全体として利用者数に回復傾向は見られますが、路線によっては利用者に減少傾向が見られるため、実態に即した運行方式への見直しを行います。
- 物価高騰や人件費の増加を受けて、運行経費は増加を続けており、公共交通に対する市の負担額も増加を続けているため、ニーズに応じた運行方式への見直しにより、費用対効果の高い運行を目指します。
- 高齢者から、デマンドの予約方法が分かりづらい、バスやタクシーの乗り方が分からないといった声が多く聞かれたため、乗り方教室等で丁寧な周知活動に取り組み、市民が利用しやすい公共交通の実現に努めます。
- 利便性が向上し利用が増えるために、必要な時に必要な場所に行ける、より自由度の高い公共交通を望む意見があったため、利用しやすい交通体系の構築に向けて検討を行います。

自己評価

関市公共交通活性化協議会 令和8年1月28日（水）

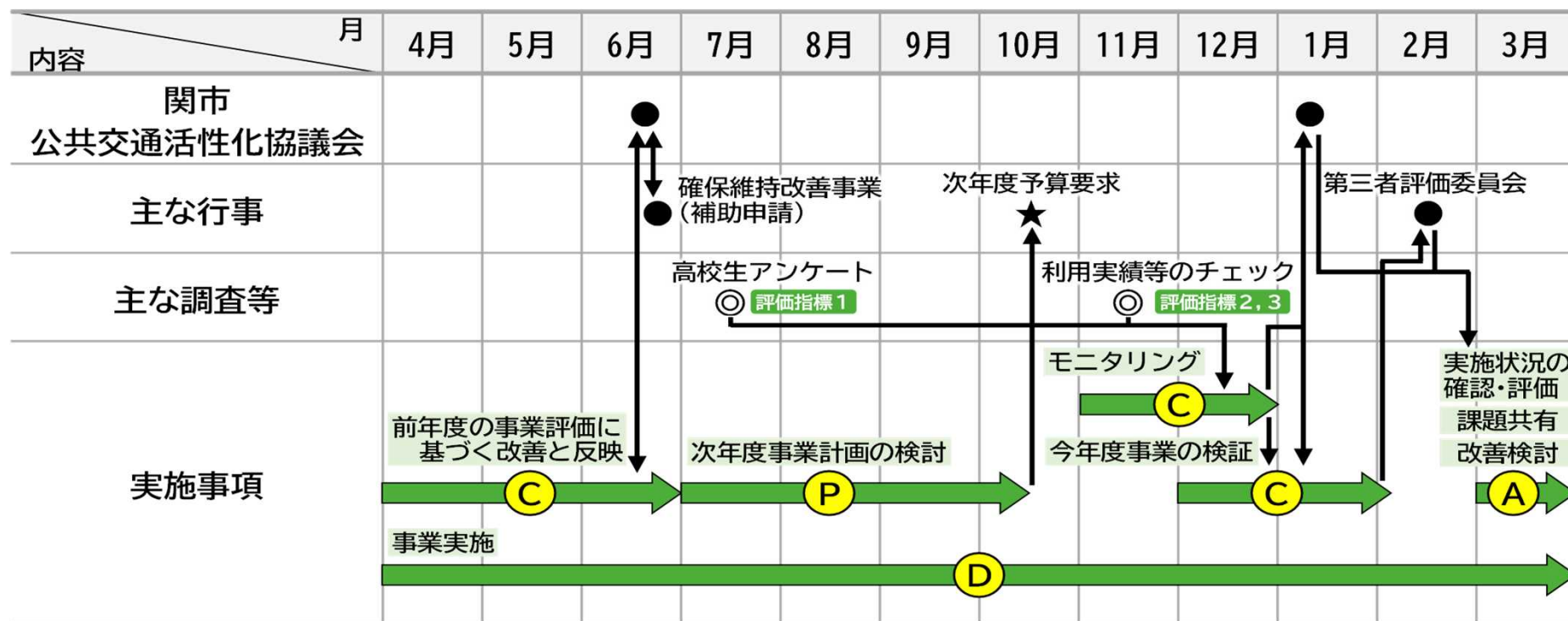
評価指標	目標値	実績値					考察
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
【指標①】 市内の高校に送迎で通学している高校生の割合（％）	8％以下	9.3％	7.9％	10.5％	9.6％		前年度と比較して0.9％減少。武義高校のアンケート回答数が大きく増えたことで送迎率に影響し、減少したものと推察。
【指標②】 人口1人あたりの公共交通の年間利用回数（回/人）	9.0回/人以上	10.1回/人	11.1回/人	11.3回/人	11.2回/人		前年度と比較して0.1回/人減少。R7.4に岐阜美濃線が武義高校線となり、朝夕のみの運行となったことで利用者が減少したことによる影響と推察。
【指標③】 公共交通の維持に必要な市民1人あたりの年間負担額（円/年）	5,253円/年以下	5,598円/年	5,739円/年	6,033円/年	7,085円/年		燃料費等物価高や人件費増により、増加傾向にある。長良川鉄道の信号保安設備への補助金が、部品調達の遅れにより次年度に繰越となり、大きく増加したものと推察。
【参考】 市民の満足度向上（％）	満足 11.2％以上 不満足 50.8％以下	13.9％ 30.8％	15.3％ 38.8％	14.0％ 29.0％	16.4％ 31.3％		満足、不満足ともに増加し、普通との回答が減少した。

作成目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>【指標①】</p> <p>今年度目標値を達成できなかった。 アンケートの回答率の影響もあり、毎年増減しているが、未達成となる場合が多い傾向にある。</p>	<ul style="list-style-type: none">・昨年度見送りとなった、高校生を対象とした長良川鉄道の定期乗車券補助事業の実施に向けて検討する。・進学を控えた中学生や高校生を対象に、公共交通を利用した通学方法や助成制度の案内チラシを継続的に配布し、若い世代の公共交通利用を促進していきたい。
<p>【指標②】</p> <p>人口1人あたりの公共交通の年間利用回数はコロナ禍により低下、徐々に復調傾向にあるものの、利用者の数は停滞している。</p>	<ul style="list-style-type: none">・今年度実施した市民意見交換会で、公共交通の利用の仕方がわからないといった声が多く聞かれたため、乗り方教室を積極的に実施し、利用促進を図りたい。・新たに商業施設を経由することとした千疋線は利用者の増加が続いており、引続き各路線の傾向を分析しながら、利用促進に繋がる周知活動を行っていきたい。
<p>【指標③】</p> <p>公共交通の維持に必要な市民1人あたりの年間負担額は増加が続いている。</p>	<ul style="list-style-type: none">・昨今の大幅な物価高騰や人件費の増加に伴い、運行経費も大きく増加しているため、それに付随して市の欠損補助等の経費も増加し、年間負担額の減少は見通せない。・次期地域公共交通計画において、交通体系の見直しを行い、ニーズに即した運行を行うことで費用対効果の高い交通体系の実現を図りたい。
<p>【参考】</p> <p>市民の満足度向上は「満足」「不満」がともに減少し、「ふつう」の評価が増加した。</p>	<ul style="list-style-type: none">・今年度実施した乗降調査、利用者アンケート調査、市民意見交換会等の結果を踏まえ、利用状況やニーズを把握し、改善につなげていきたい。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	買い物循環線について、引き続き沿線の商業施設と連携した積極的な周知に努めるなど、利用促進に努められるよう期待します。	園児による装飾バスの運行などにより、EVバスのPRやバスの利用促進に努めましたが、商業施設との連携は実施できませんでした。	商業施設に近いバス停の利用者が多いため、既存施設での周知活動に加えて、バス停近くに商業施設が新規オープンした際には、時刻表を置いてもらうなどの協力依頼を行い、積極的な周知活動を行っていきます。
	地域公共交通の主な利用者となる学生のニーズへの対応も期待します。	利用者が増加している高速名古屋線の通学定期乗車券購入補助金について、学校や塾にチラシを配布したほか、成人式でもチラシを配布し、さらなる周知に努めました。	長良川鉄道の通学定期券への補助等、新たな助成制度を検討するほか、高校生アンケートを継続的に実施して若者のニーズの把握に努めます。
	輸送実績や収支率が低い系統について、生活交通の確保維持に向け、沿線自治体、関係事業者との情報共有及び連携した取組の実施に期待します。	乗降調査、利用者アンケート調査、市民意見交換会等を今年度実施しました。今後、現状と課題を整理し、関係者と情報を共有して輸送量や収支率の改善を検討します。	地域によって課題やニーズが異なるため、地域の実情に沿った輸送方法を関係事業者とともに検討していきます。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	地域内フィーダー系統の補助要件に満たない路線については、現状把握や分析を進め、より住民のニーズに沿った公共交通サービスへの見直しも含め、関係者と連携し、検討や取組が進められることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・武儀、上之保地域から武義高校へ通う生徒が、帰宅時の長良川鉄道と関上之保線の乗継時間が短く、乗り継げないことがあるとの意見を受け、10月のダイヤ改正で関上之保線のダイヤ調整を行い、乗り継ぎ時間を確保しました。 ・自治会要望により、東山4丁目集会場にわかさ・富野線の乗降地点を新設し、令和7年1月より運行開始します。新設にあたっては、バスの乗り方教室を開催し、デマンド予約の方法を解説し、利用促進を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用有償旅客運送を実施している地域では、定時運行からデマンド運行を希望する声も出てきているため、地域の要望を聞きながら、輸送モードの変更について、検討、支援していきます。 ・自治会要望や公共交通会議での意見交換を参考に、より良い公共交通サービスが提供できるようニーズ把握に努めます。
	引き続き、高校進学を控えた中学生を対象として公共交通での通学に係る案内や支援に取り組まれることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生、高校生を対象とした、通学に利用できる公共交通や、助成制度の案内を実施しました。 ・今年度は、上記以外にも、市内の学習塾へも案内チラシを送付し、更なる周知活動を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は長良川鉄道の通学乗車券購入補助事業も実施予定であるため、広く周知して利用促進を図ります。 ・高校生アンケートを継続実施して、ニーズ把握に努め、改善の参考とします。
	EVバス導入については、ゼロカーボンシティの実現や公共交通の魅力向上のほか、持続可能な公共交通につながることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き、今年度も1台のEVバスを導入しました。 ・10月に開催された、せき環境フェア2024に出展し、来場者へEVバスの紹介をし、公共交通の魅力を広く周知しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もEVバス導入を予定しています。運行実績を参考にし、デマンド運行車両のEV化も検討していきます。

■年間スケジュール



【協議会の実施状況】

第1回協議会	令和7年6月30日	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通確保維持事業承認 ・第三者評価委員会の評価報告
書面表決	令和7年9月12日	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドバスの車両変更 ・自家用有償旅客運送の使用車両変更
第2回協議会	令和8年1月28日	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通確保維持改善事業評価 ・令和7年度関シティバス運行実績報告 ・バス停の新設報告

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月14日 (別添1)

協議会名: 関市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(陸上交通における地域内フィーダー系統及び離島航路)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり実 施されなかった場合には、理由 等記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が達 成できなかった場合には、理由 等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
岐阜乗合自動車株式会 社	わかくさ・小金田線	これまでの事業評価、路線 別評価の結果を受け、さらな る利用促進を図った。	A	事業は計画に基づき適切に実施 された。	C	利用者数14,085人(前年比232人 ↓) 収支率4.8%(前年比0.0%→)	津保川台や虹ヶ丘などの団地と、マーゴや ベイシアなどの商業施設を結ぶ市民の生活 の足となっている。 マーゴ利用者が全体の27%を占めている ほか、ターミナルでの乗継や中濃病院への 移動手段として利用されている。 今後も利用者ニーズを把握しながら、利用 促進を図っていく。
岐阜乗合自動車株式会 社	わかくさ・小金田線 百年公園経由	R7.10 ハロウィン装飾を実 施して、市内運行を実施					
岐阜乗合自動車株式会 社	わかくさ・千疋線 太平台タウン～中濃厚生病院 栄町経由	これまでの事業評価、路線 別評価の結果を受け、さらな る利用促進を図った。	A	事業は計画に基づき適切に実施 された。	C	利用者数6,030人(前年比1,080人 ↑) 収支率3.4%(前年比0.4%↑)	太平台や千疋などの団地の住民が、通院 や買い物で利用できる生活の足となってい る。 対前年度比22%増。令和6年4月からのダイ ヤ改正でマーゴ経由となって以降利用者が 増加しており、マーゴ利用者が全体の20% を占めている。 今後も利用者ニーズを把握しながら、利用 促進を図っていく。
岐阜乗合自動車株式会 社	わかくさ・千疋線 中濃厚生病院～中濃厚生病院 栄町経由						
岐阜乗合自動車株式会 社	わかくさ・千疋線 中濃厚生病院～中濃厚生病院 マーゴ経由						
岐阜乗合自動車株式会 社	わかくさ・千疋線 中濃厚生病院～太平台タウン マーゴ経由						
岐阜乗合自動車株式会 社	関板取線 寺尾経由	これまでの事業評価、路線 別評価の結果を受け、中 学生に対して利用促進を図 った。	A	事業は計画に基づき適切に実施 された。	C	利用者数52,798人(前年比1,417 人↓) 収支率10.2%(前年比0.9%↓)	関高校、山県高校及び美谷学園などへの 通学や沿線企業への通勤の利用者が多く、 市民の生活の足となっている。 利用者が減少した要因としては、瀬尻小学 校や美谷学園への通学者の減少や、大雪 による運休の影響が考えられる。 引き続き、高校進学を控えた中学生を対象 に、公共交通での通学案内を実施し、利用 促進を図っていく。
岐阜乗合自動車株式会 社	関板取線 山県経由	R7.11進学を控えた中学生を 対象に、利用促進チラシを 配布					

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月14日

協議会名:	関市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(陸上交通における地域内フィーダー系統及び離島航路)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>関市の高齢化率は年々上昇しており、特に中山間地域では、高齢化率が30%を超え、高齢化、過疎化の進展が著しい状況にあります。また、少子化により、通学で公共交通を利用する機会の多い高校の生徒数は、平成12年以降、減少傾向が続いています。</p> <p>このような状況の中、公共交通サービスを維持確保するためには、より多くの市民に公共交通を利用してもらう必要があり、まちづくりと一体となった公共交通の利用促進が求められます。実現するためには、利用しやすい交通体系の構築が必要となり、市民ニーズに応じた生活交通を確保すること目的として、来年度改定する関市地域公共交通計画に基づき、地域公共交通確保維持改善事業に取り組んでいきます。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和8年1月14日

協議会名: 関市公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>①地域特性の把握・整理 本市の地理的条件や道路網の状況、人口分布、施設立地などの地域特性を把握するため、既存資料を基に状況整理を行っています。市域の東部では区画整理が進み、今後人口分布が変わる可能性があります。</p> <p>②利用実態及びニーズに係る調査 乗降調査、利用者アンケート調査、高校生アンケート調査、全国交通系ICカード等のデータ集計など、利用実態や潜在的なニーズを探るための調査を実施しています。利用者の多くは高齢者ですが、休日の買い物循環線は、20歳代以下の若者が多く利用していることがわかりました。</p> <p>③公共交通の現状分析 既存資料及び各種調査の結果を基に、公共交通の運行状況、利用者数、運賃、収支・補助状況等、公共交通の概況の整理と分析を行っています。コロナ禍が終わり、利用者は全体的に増加傾向でコロナ禍を上回る便もありますが、デマンドバスで利用が減少している便も見られました。</p> <p>④市民意見交換会の開催 地域の意見を把握して地域公共交通計画に反映させるため、各地域において市民意見交換会を5回を実施し、各地域での意見を聴取しました。市民からは、利用方法の周知不足や、より自由度の高い公共交通の要望など、様々な意見が聞かれました。</p>	<p>A</p> <p>計画どおり事業は適切に実施されました。</p>	<p>地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)</p> <p>関市地域公共交通計画の策定</p> <p>令和9年4月から令和14年3月までの計画について、令和9年3月に策定</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月14日

協議会名：	関市公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>令和4年3月に策定した関市地域公共交通計画が令和9年3月に計画期間満了を迎えるため、令和7年度に調査業務、令和8年度に策定業務を実施します。</p> <p>人口減少や運転士不足、物価高騰等、社会情勢の変化に伴って、本市の公共交通をとりまく環境は年々厳しさを増しています。</p> <p>計画策定にあたっては、現計画の達成状況や課題の整理を行い、本市の各地域の状況や公共交通の利用状況、市民の移動ニーズ等を調査し、地域での意見を踏まえながら、市民にとってより利用しやすく、また、持続可能な交通体系の構築に向けて、方針を検討し見直しを行います。</p>